

白梅会報

編集・発行 宮城県古川黎明中学校・高等学校同窓会 白梅会
〒989-6175 大崎市古川諏訪一丁目4番26号 電話 (0229) 22-3148

校歌

作詞 土井 晩翠
作曲 陸軍戸山学校
軍楽隊

一、荒雄川 また鳴瀬川
流れ合ふ 大崎平野
水絶えぬ 郷に匂へる
なつかしのわれらの母校

二、一念の誠のしるべ
朝夕の たゆまぬ「励」
かがやける 望みにみち
わづみがき 心きたへよ



同窓会会長
千葉 典子

ごあいさつ

樹々の緑はいよいよ深さを増してきました。同窓生の皆様には、お元気で過ごすごしのこととお慶び申し上げます。

昨年は母校の創立百周年にあたり、同窓生の皆様には多大なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。思いもかけないコロナ禍の中で、当初の計画通りには運ばず、困惑の日々がありました。百年の集大成としての重みと、集まってくる同窓生の方々の大切な思いを醸成させてどこへ着地するか、話し合いを重ねました。大きく背中を押してくれたのは、百周年のキヤッチフレーズ「水絶えぬ郷に匂へる」100年の想い、素敵なロゴマーク、商品化されたカステラ等に込められた在校生の皆さんの若いパワーでした。そして「創立百周年記念誌」が上梓されました。開校準備から百周年を迎えるまでに関わってきた人々の足跡を拾った見事な一冊となりました。多くの同窓生の皆様に読んでいただきたく、その一部をここにお届けします。

『百年の間に、実に多くの生徒達が、本校を舞台にそれぞれの学生生活を全うしてきました。その生き生きとした姿は、本誌の至る所にちりばめられています。写真の中には、純粹で神々しいまでの笑顔や、必死に何かを追いかけている表情などが見て取れるし、活字の中には、それぞれの時代に、生徒達が何気ない日常をその豊かな感性で極上の学校生活に変えてきた様子や、自分たちの目標に向かってひたむきに突き進んできた様子などがうかがえる。まさに本校を舞台に、一人一人の生徒たちがそれぞれにとって最高の物語を紡ぎ、それぞれの白梅を咲かせてきた姿が本誌の中にはある。全ての生徒達が、高女を、古女を、そして古川黎明を輝かせてきたのだ。』（創立百周年記念誌編集後記より）

ここをスタートとし、次の百年への壮大な歴史が紡がれる時、その傍らにいつも、百花にさきがけて花開く白梅の精神がありますようにと願っております。最後に、母校の皆様のご活躍、同窓会の発展、そして同窓生の皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

「次なる百年へ」



校長
佐藤 浩之

今年度四月より、古川黎明中学校・高等学校に就任致しました佐藤浩之と申します。同窓会の皆様には、本校の教育活動に對しまして、ご支援・ご協力をいただいておりますこと心より感謝致します。前任の小川校長先生同様よろしくお願い致します。本校は大正九年に古川高等女学校として開校し、その後、古川女子高

「古女の伝統、そして黎明の未来へ」



恩師
薄 久美

令和二年に母校が創立百周年を迎えました。改めて心よりお祝いを申し上げます。同窓生としてとても誇らしく思います。

古川高等女学校の呼称で二十七年、古川女子高等学校として五十七年、そして男女共学の中高一貫校の古川黎明高等学校となつて今年十七年目を迎えています。この歴史の中に私達の青春の高校生活が刻まれているのです。

私は、昭和四十八年の入学で、コーラス部で菅野先生に鍛えられました。一年の担任は通雅先生。現在は

校、古川黎明中学校・高等学校となり、昨年、創立百周年を迎えました。開校以来の卒業生は三万人を超え、各界で活躍なされていることは周知のことと思います。百周年記念事業といたしまして、記念誌の発行、記念碑の建立、白梅会館のエアコン改修、そして、十月二十三日（金）には盛大に記念式典が開催されました。これらの事業を実施できたのも、ひとえに、千葉典子会長様をはじめとした多くの同窓生の皆様の大きな力があつてこそと感謝申し上げます。今年度は、次なる百年への第一歩目となります。同窓生の皆様が築き上げた伝統を大切にしながら、新たな古川黎明中学校・高等学校を創造していきたいと考えます。さて、生徒の活躍についてご報告

させていただきます。本年三月の卒業生の進路状況ですが、大学・短大が72・8%、看護系を含む専門学校が15・5%、民間就職・公務員が13%でした（三月二十六日現在）。また、文部科学省より指定をいただいている「スーパーサイエンスハイスクール（二期目）」事業については、五年間の事業のうちの三年目に当たり、中間評価を受ける大切な年となっています。五月十八日には、「大崎市学校教育ICT活用推進コンソーシアム協定」に調印し、地域の中学校との連携も深めています。新型コロナウイルス感染症予防のため、制約の多い学校運営となりますが、今後ともご理解・ご支援のほど宜しくお願い致します。

河北歌壇の選者をされております。二年の時は吉則先生。担当は私の苦手な英語です。三年の時は荒井先生。いつもニコニコの日本史の先生でした。これを読んで頂いている同窓生の皆様も担任の先生を思い出してあの頃に想いを馳せて見て下さい。部活動、早弁、櫓を組んだ体育祭、一大イベントの文化祭など、友と謳歌した日々。あの先生の忘れられない授業もありますね。

そして私も教師となつて古女の教壇に立つ機会を頂き十年間お世話になりました。その時の最後の卒業生が今回の当番幹事を務めて頂いている方々になります。本当に懐かしいと思います。皆様も三十八歳というところで公私に於いて中堅として活躍のことと思います。古女時代に培った自主自立の精神と、未来の栄えこそ女性の力」と歌ったあの頃を基に社会貢献されているのではないかと確信しています。現在、あの頃を懐かしむ校舎はな

くなり、白梅会館と体育館が残るのみですが、百年の伝統は今黎明高校の生徒達に受け継がれています。生徒会長の言葉に「過去のことが、今そして未来への影響を及ぼすのだ」と語っており、歴史への敬意と未来への飛躍を感じ、頼もしく思います。退職後に黎明高校の講師をさせて頂いた折に、今を生きる優秀な生徒達と一緒に調べ考えたことを最後に書かせて頂きます。今年は東日本大震災から十年となりますが未だ復興の途中であり、さらにコロナ禍による新しい生活スタイルの模索など様々なものに立ち向かう時。また、持続可能な社会を地球規模で目指す取り組みを選択する分岐点にきており、SDGsの十七項目を企業や家庭で考えていくことも大切な時です。生徒一人ひとりができることから実行していくという授業でした。私自身も未来の子供達、地球のために微力ながら取り組んで行こうと思っています。

黎明生として

進路指導部長 木村 秀一

同窓会の皆さん、いつも在校生のことを温かく見守っていただき、また節目節目にはたくさんのご援助をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。また、昨年度は同窓生の皆さんに多大なご尽力をいただき、百周年記念式典を無事終了することができました。毎朝毎夕、立派に完成した校門前の記念碑を見るたびに、古川女子高等学校から古川黎明中学校・高等学校に託された伝統の重さを感じます。三年間のご準備本当にお疲れ様でした。

さて、昨年度は新型コロナウイルスの感染予防による休校が五月いっ

ばいまで続き、受験を控えた高校三年生にとつてはまさに受験の年となりました。それに加えて三〇年間続いた「大学入学センター試験」が「大学入学共通テスト」へと名称を変え、出題の方向性も大きく変化する年でした。さらに加えてこの学年は、高校に入学する時点で、二年後の受験の際には「英語民間試験の導入」と「共通テスト国語・数学の記述問題の導入」「活動実績の点数化」が決定されており、それこそ一年生の時から、二年後を見据えて、さまざまな努力を地道に積み重ねてきた学年でした。皆さんも報道等でご存じのところとは思いますが、結局それらの改革は学校現場や生徒・保護者に対するしつかりとした説明がなされないままに突然中止になってしまいました。それまで生徒たちが払った尊い努力と、膨大な時間を

思うと、私自身やり場のない憤りに震えたものでした。それに加えての「コロナ休校」だったわけです。

しかし、この「大人の事情」に振り回された混乱期にあっても黎明高の在校生はとも立派でした。恨み言を言いたくなるのも人情。誰かのせいにしたくなるのも人情。実際彼らが置かれた状況はそれが許されるくらいのものでした。にもかかわらず、彼らは現状を淡々と受け止め、限られた時間の中で一切愚痴も言わずにできる限りの努力を誠実に果たしてくれました。何より僕が救われたのは彼らの明るさです。休校明けの六月一日。校舎に響き渡る明るい笑い声には僕ら教員自身も大きな勇気をもたらしたような気がしたものでした。

左表はこの春卒業した令和二年度卒業生の進路決定状況です。逆境を見事にはねのけ、これまでにない結

果を残してくれました。卒業式の日の生徒会長三野正太郎君の答辞の言葉が心に沁みます。

「僕たちの世代を入試改革やコロナに翻弄されたかわいそうな世代と呼ぶしないでください。僕たちにとってこの経験は、他の世代にはない貴重な経験でした。最大の目標であった高校総体が中止になっても、高校生活最後の行事が削減されても、その都度僕らは仲間とともに乗り越えてきました。入試制度が二転三転しても先生を信じて、自分たちの力を信じてこうして乗り越えることができました。支えてくださったすべての方々に感謝しながら、これからも自らの道を切り開いていきます。」

こんな言葉を残せる生徒がこの学び舎で育ち巣立っていくことが、僕たちの喜びであり、誇りです。

過去3年間の卒業生の進路

	平成30年度 (平成31.3月 卒業生)		令和元年度 (令和2.3月 卒業生)		令和2年度 (令和3.3月 卒業生)	
	合格 者数	進学 者数	合格 者数	進学 者数	合格 者数	進学 者数
国公立4 年制大学	50	46	47	43	61	50
私立4年 制大学	349	114	301	117	310	122
国公立短 大	2	2	2	1	2	2
私立短期 大学	22	17	5	5	14	6
大学校	1	1	2	2	1	1
専修各種 学校	35		45		36	
公務員	10		1		1	
民間就職	3		3		2	
進学準備	7		9		12	
その他	0		1		0	
卒業者数	235		227		232	

過去3年間の卒業生の主な進路先

【国公立大学】

室蘭工業大、帯広畜産大、北海道大、北教大岩見沢校、北教大函館校、北教大釧路校、北見工大、弘前大、岩手大、宮城教育大、東北大、秋田大、国際教養大、山形大、福島大、茨城大、筑波大、宇都宮大、群馬大、埼玉大、千葉大、東京学芸大、東京農工大、横浜国立大、新潟大、信州大、富山大、山梨大、静岡大、名古屋大、京都市大、岩手県立大、宮城大、秋田公立美大、福島県立医科大、長岡造形大、群馬県立女子大、高崎経大、静岡県立大、千葉保健医療大、横浜市立大、神奈川保福大、山梨県立大、都留文科大、長野大、長野県立大、防衛大学校、国立看護大学校、東北職能大学校

【私立大学】

札幌学院大、酪農学園大、青森中央学院大、八戸工業大、岩手医大、盛岡大、宮城学院女子大、尚絨学院大、石巻専修大、仙台大、仙台北百合女大、東北医薬大、東北学院大、東北工大、東北生活文化大、東北福祉大、東北文化学園大、日赤秋田看護大、東北芸術工大、東北公益文科大、奥羽大、つくば国際大、国際医療福祉大、白鷗大、群馬パース大、埼玉工大、女子栄養大、文教大、獨協大、亀田医療大、秀明大、聖徳大、千葉科学大、千葉工大、和洋女子大、共立女子大、実践女子大、玉川大、駒澤大、国士舘大、芝浦工大、順天堂大、昭和大、昭和女子大、跡見学園女子大、上智大、成蹊大、専修大、早稲田大、大妻女子大、大東文化大、拓殖大、中央大、津田塾大、帝京大、東京音大、東京工科大、東京女子体育大、東京農大、創価大、東京理大、東洋大、日本女子大、日本体育大、日本大、日本工業大、白百合女子大、明治大、目白大、立教大、立正大、城西国際大、神田外語大、フェリス女大、鎌倉女子大、川村学園女子大、淑徳大、麻布大、関東学院大、北里大、神奈川大、東海大、洗足学園大、東洋英和女学大、新潟医療福祉大、新潟食料農業大、長岡バイオ大、金沢工大、関西学院大、神戸女学院大、金城学院大、名古屋学院大、愛知学院大、花園大、立命館大、清心女子大、福岡大

【国公立短期大学】

山形県米沢女子短大、宮城誠真短大、聖和学園短大、仙台青葉学院短大、仙台赤門短大、創価女子短大、東邦音楽短大、跡見学園短大、大垣女子短大

宮城県古川黎明高等学校ホームページ (<https://freimei-h.myswan.ed.jp>) にも各支部の活動等の記事を掲載

創立100周年記念式典挙行

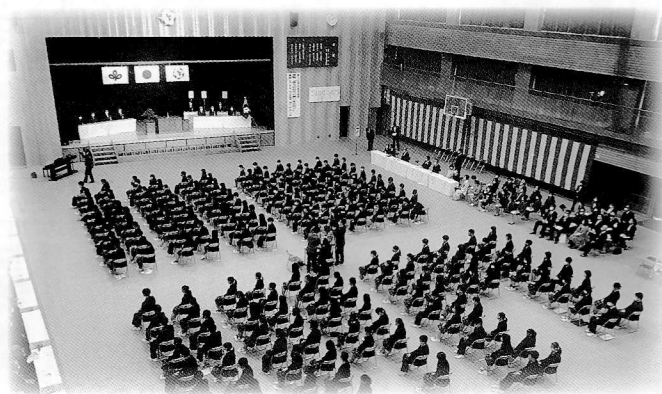
本校は昨年、創立100周年の大きな節目を迎え、令和2年10月23日に記念式典が挙行されました。記念式典は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、規模を縮小し、高校3年生と教職員、来賓合わせて約400人が出席しました。中学1年から高校2年生までは、各教室からリモートでの参加となりました。

式典後には、卒業生で役者、劇作家、演出家として活躍されている高泉淳子さん（普通科29回）が、「彼方の自分に願いを込めて」と題した講演が行われ、自身の生い立ちや古川女子高校時代を振り返りながら、「人生は短いようで長い。夢は変わってもかまわない。自分に自信を持って、自分がワクワクするような場所に行けばよい。」との言葉をいただきました。また、講演では、老婆に扮して演じたり、ジャズを歌ったりと変幻自在なパフォーマンスも見ていただきました。

記念碑の除幕式

式典に先立って、記念碑の除幕式が校門入口にて行われました。この記念碑は、卒業生（普通科第22回）である高橋芳枝（旧姓 佐々木）様から寄贈されました。

本校のシンボルである白梅を象つたモニユメントには、100周年事業キャッチフレーズ「水絶えぬ郷に句へる」100年の想い」が刻まれています。また、もう一つのモニユメントには、実行委員長であり同窓会会長の千葉典子氏が揮毫した校訓の「尚志・至誠・精励」が刻まれています。



「創立100周年記念誌」ご購入のご案内

創立100周年記念事業の一環として、「創立100周年記念誌」を編纂いたしました。まだご購入されていない皆様がいっぱいありました。是非ご購入をしていただきたく、お願い申し上げます。

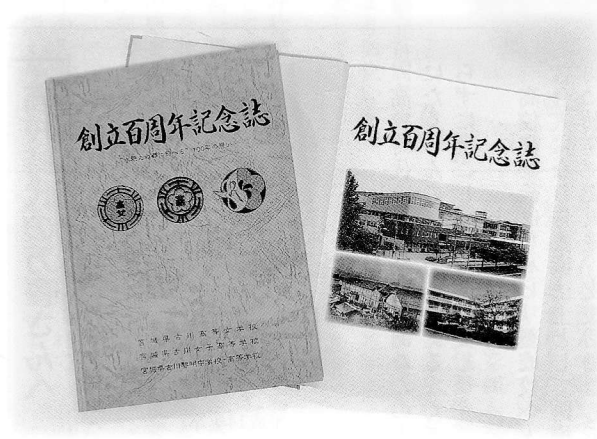
母校の100年の歴史や、現在の様子がぎゅっと綴られています。

ご購入を希望される場合は、直接古川黎明中学校・高等学校の同窓会事務局にお電話をしていただくと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

A4版 197ページ
一冊 2000円

同窓会事務局

☎ 0229-2213148



〈同窓会本部・支部より〉

令和2年度は、本部・各支部共、コロナ禍により、総会を開催できませんでした。本部の元年度事業報告・会計決算報告、2年度事業案・予算案につきましては、本部役員の皆様へ資料送付の上、紙上審議いただき、賛成多数で承認をいただきました。令和3年度は5月30日に本部役員会、8月1日に本部総会を規模縮小及び飲食なしで開催予定です。

〈同窓会名簿についてお詫び〉

同窓会名簿の18ページに記載のある高橋都先生につきましては、何らかの手違いで「逝去」表示になっておりますが、これは誤りであり、大変お元気でいらっしゃいます。会報紙上をお借りして重々お詫び申し上げます。

謹んでお悔み申し上げます。

旧職員 大杉登志夫先生

(S57-59勤務・美術)

同窓生 菊地 純子様

(S36卒・旧姓 山田)

同窓生 武田 洋子様

(S31卒・旧姓 鈴木)

岩出山地区幹事

同窓生等がご逝去された際には、同窓会までお知らせください。

同級生は今

今を生きるということ



平成14年卒
佐々木良美

同窓生の皆様、お元気でしょうか。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、今一つ気分が晴れない日々が続きますね。毎日がただ楽しく、その日を全力で過ごしていた高校時代には全く想像しなかった世界が、今私達の「新しい日常」となりました。

高校時代といえば、毎日部活の朝練に始まり、睡眠と格闘しながら授業を受け、チャイムとともに体育館へ走るそんな部活中心の生活だったように思います。テスト勉強はいつも一夜漬けで、文武両道とは遠くかけ離れた生徒でした。進路を考え始めた頃も、明確な将来の目標もなく、ただ何となく安定志向で公務員を目指したように記憶しています。目の前に広がる可能性に気づかず、狭い世界で満足していた、まさに井の中の蛙でした。

そんな私ですが、現在は国家公務員として中央官庁に勤め、様々な出会いと経験、失敗、挫折を繰り返しながらも、日々、国家行政の一翼を担う者として業務に奮闘しています。また、学ば喜びによりやく目覚め、仕事の合間に語学や資格の取得に励んでいます。勤務地が東京であることから、新型コロナウイルスの関係では仕事、生活の両面において大きな変化がありました。家族や友人に会うこともままならず、精神的に疲弊しましたが、一方で追い込ま

れた状況だからこそ気づけた事、学べたことがあります。一つは、何事もやってやれないことはないということ。テレワークの実施一つを例にとっても、実施前はほぼ不可能、元の業態に戻るのも時間の問題だと内心考えていましたが、今では定着し、以前より業務効率があがったと実感しています。また出勤に捕らわれない働き方の可能性の広がりを感じました。「出来ないことの大半は、自分が出来ないと思っ込んでいるに過ぎない」ということ、また「常識を疑う」ことの必要性、「あたり前に慣れる」ことの危険性、この気づきを得ることが出来たことは、人生の転機であったと感じています。今後はより柔軟な発想で、全体の利益を考え、追求していける公務員でありたいと思います。

この度、会報誌の執筆依頼を頂いたことで、同窓生の皆様のご活躍を知ることが出来、大きな励みとなりました。いつか、お会い出来るその日まで、私自身も精一杯歩み続けて行きたいと思っています。

末筆ではございますが、マスクを外して大声で笑いあえる日常が一日も早く戻りますように、同窓生の皆様のご健康とご多幸を願っております。



高校時代の万喜さんへ



平成14年卒
安田 万喜

高校時代のある経験があなたの人生にたくさん影響力を与えるなんて知らずに過ごしていたことでしょう。

高校卒業後はリハビリ養成校へ入学。社会人になり作業療法士として医療機関に勤務。震災後、支援活動として渡った福島県南相馬市の病院。どんな状況下でも患者さんはいらる。簡単な気持ちで相手の立場になって物事を考えることは難しい状況のなか、できる限り笑顔でリハビリ業に従事。震災前と180度生活が変化した地域の皆さんとの生活は人間としても作業療法士としても成長したかもしれない。

その後、青年海外協力隊としてタイ王国派遣されたのは、アラサーの頃。タイの田舎の町でたったひとりの日本人として地域医療に携わる。なかなか通じない下手くそなタイ語。とにかくがむしゃらに笑顔絶やさず過ごしていた。笑顔は世界中の共通言語なのだ!! (まして、ほほえみの国だもの!!)

さて、高校時代、授業が終わると体育館へ向かい練習準備、テーピングやマッサージ、当時の監督青柳先生とのやりとりなど選手が最高のパフォーマンスができるよう、毎日笑顔を絶やさず精一杯動き回っていましたね。あなたは古女バレエ部のマネージャー。若

さや勢いが羨ましい!!お勉強をもっとしておけばよかった。と、思うことはあるけれど、古女バレエ部を楽しく続けたあなたにハナマルを贈りたい。練習も試合も辛くて辞めたい気持ちになったこともあったが、仲間と泣いたり笑ったりした経験は今では美しい。作業療法士の仕事も、震災支援も、青年海外協力隊でも、場所がどこであれ相手が誰であれ、相手の気持ちに寄り添い、笑顔で接することは古女バレエ部が原点だと私は思う。(育児はそううまくはいかないけど!!)

最後になりますが、今回は同窓会報に寄稿できることを嬉しく思います。また、読んでくださった皆様、落ち着かない世の中ですがお身体ご自愛第一でお過ごし下さい。

編集後記

お忙しい中、原稿をお寄せいただきました皆様方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

多くの方々の深い絆を再確認することができました。ありがとうございます。

同窓生の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

当番幹事

- | | |
|---------|-------|
| 鎌田奈津子 | 吉田まとも |
| 辻本 幸江 | 渡邊のぞみ |
| 佐々木美幸 | 及川 貴恵 |
| 高橋 弥生 | 布田 友美 |
| 鶴田 志穂 | 安田 万喜 |
| 今野由里子 | 岩崎 彩 |
| 山内由紀子 | 森 和美 |
| 小茄子川美紀子 | |
- (普54回生・衛33回生・平成14年卒)